雑音抑え 理想の補聴器を

熊本高専の中島研究室

大手メーカーと共同研究

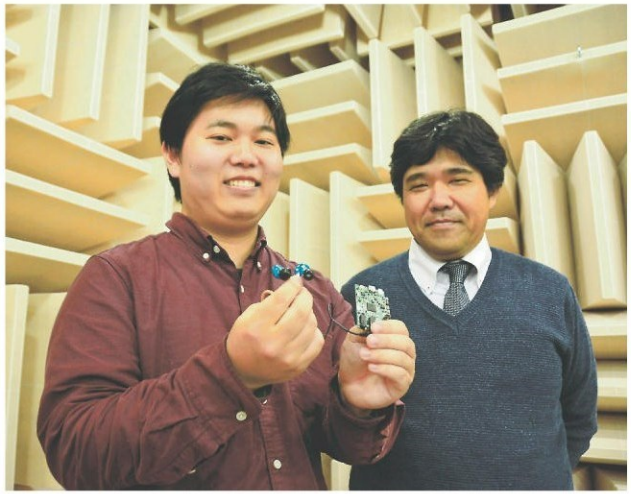
熊本高専熊本キャンパス（合志市）の中島栄俊准教授（音響工学）の研究室は、デジタル信号化された音声から雑音を抑え必要な音だけを残すノイズリダクションの研究を重ねている。補聴器を支える基礎的な研究で、高齢化社会の進展で高まるニーズに備え、理想の音を探る。

２０１５年から大手補聴器メーカー「リオン」（東京）と、聞こえ方を改善するための共同研究を始めた。計算式やプログラムを介して、難聴者に聞こえやすい音に変換させる内容。18年までに風切り音を低減させることに成功したという。

本年度は音の劣化を最小限にとどめた上で、人間がざわつく声や機械音などを抑える研究に取り組む。中島准教授とプログラミングを担う専攻科１年の宮家一真さん(21)は「意図した通りに音が抑えられると励みになる」と話す。

今後は難聴者を対象にした実証実験や無響室での実験も計画されている。扇風機を使って風の音を入れたり、板を置いて音を反響させたりして、より複雑な環境下で得られたデータをもとにプログラムを改良していく。

中島准教授は「聞こえるという手応えは自信につながる。研究成果を高齢者のＱＯＬ(生活の質)向上に役立てたい」と話している。（林田貴広）



熊本高専の無響室で、試作段階の補聴器を手にする宮家一真さん（左）と中島栄俊准教授＝合志市